

第 14 回 アジアヘルニア学会参加レポート

西宮市立中央病院 吉岡 慎一

2018年11月29日より12月1日にドバイ(アラブ首長国連邦)で開催されましたアジアヘルニア学会に参加してまいりました。

まず、ドバイがアジアに含まれるというのが意外、ということからのスタートでしたが…。

関西国際空港発で約10時間のフライトの後、ドバイ到着です。

まず学会会場へ直行です。



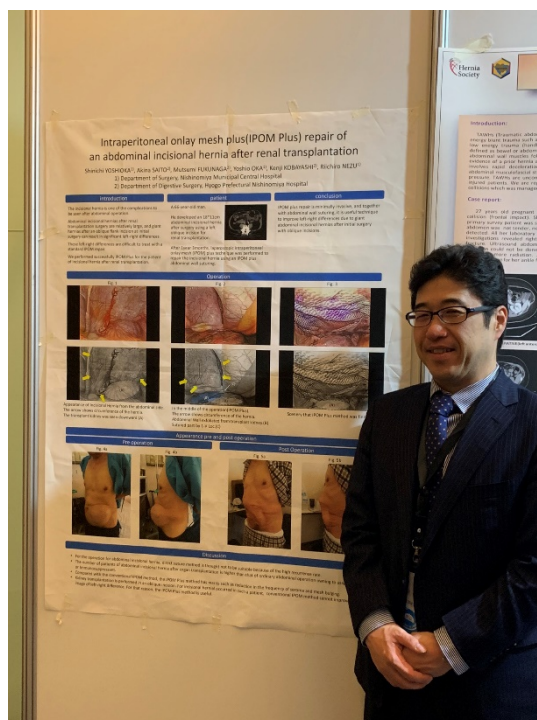
学会会場で事前登録したネームカードを受け取るのですが、システムがちゃんとしていないのか長蛇の列の上、どこでもらったらいいのかわからず大変でした。

日本での学会のシステムがいかにかかりしているか改めて実感しました。

私はポスター発表でしたが、もちろんといかないといかない、画鋲なんてありません。係員にテープをもらってそれを張り付けるという作業の上、張る場所どこに張っていいのかわからず、さらに中華系のポスターが3つの展示分にまたがって張ってあるという始末…。なんとも言えないポスターセッションでした。

オーラルセッションでは鼠径ヘルニアに関してはあまり目新しいデバイスやテクニックは少なかったように思われます。

多かったのは腹壁癒痕ヘルニアに対する報告



でした。

あまり日本ではお見受けしないようなひどい

腹壁癒痕ヘルニアが多い印象で、さまざまな工夫が見られました。

一方、ドバイはすごい国でした。さすがは観光地、という印象で、町がきれいでした。



整備されたキラキラした街で、想像を絶する印象でした。

毎晩ライトアップや噴水ショーがあり、一見の価値はあるかと思われる光景でした。



また、夕方からの砂漠ツアーにも参加してきました。鳥取砂丘とはずいぶん違います。広大な光景を見ながら、参加した仲間と明日のヘルニアについて熱く語る(?)夜でした。

学会に参加すると Certificate を頂けるのですが、よく見ると名前が間違えている…。

最後までしっかりしているようなしていないような、味のある学会でした。

来年はバリで開催予定です。

また発表できそうな内容を吟味し、参加を検討してみたいと思います。

